

21世紀究極のクルマ改造本!

G-works



ゼロヨン超速!
GT-R

G-works

ジーワークス

2011

6

定価 580円

特集

The NAチューニング

ハイカム タコ足

ポート加工

ピストン
etc.



旧車ホイール
マッチング
BMD

ゲンメとヨンメ

エキサイティングカーショーダウン
現地レポート

ナイトペイジャー×オートサービス渡部
×G-ワークス・コラボ企画

ソレックス50φ



キャブレターを知る!



L20 快速化計画! ソレックス44φ用
SPLアウターベンチュリー製作!!

チ俺たちの
チーム!



TE27

愛知・ロッキーオート
フェアレディZ HLS30改



見よ、この塗装!!

「このツヤ消しの30（秘密は右の
写真参照）…フロントスポイラー
といい、センターラインのホイール
に高扁平タイヤという組み合わせ
は、相変わらず雲囲気を作る
のが上手い。ミラーやガラス枠
までブラックアウトするという
徹底ぶり。よく見たらドアノブま
でやっぺある。この徹底ぶりに
は頭が下がるが、この雲囲気は
中々いいね。」

「前々号からのコーナーを見て
も、この人には、とても力か
りやすいと思っただけ、S30と言っ
てクルマは作り方、改造（今回は敢
えて改造と言おう）の仕方であ
り、ただ変わる。まるで別のクルマだ
けどベースは同じとしたS30で
その発言力という存在感が大き
くあるから、S30というのが分
かった上での改造車だから、やは
りS30と言いつつクルマの懐の深さこ
ういふのがよく分かる。どれもカッ
ツい感じだね。」

見るからに悪
そうなサンマル

「アンダーコートをそのまま塗ったような感覚ですかね」と話すのはロッキーオートチーフメカニックの向田さん。もちろんそのまま塗っているのではなく、特殊な塗料を調合して製作。よく見ると、凹凸になっているのが分かるだろう。これだけ凹凸があるのもまた面白い、といった感じだ。

外観だけでなく
中身も強力だ

本場アメリカでは自国の誇りでもあるOHV V8を
搭載しているS30はよく見かける。しかしそれを
そのまま持ってきて、日本の気候に合わなかったり
するから補機類を中心にモディファイしなければなら
ない。もちろんこのクルマはそういった部分は対処済み。
渋滞でも高速でも快適だ



排気管が排気量だけに全排気管は排気管を
大型のファンを装着して、大動脈の補助
がスムーズにエンジンに送られるように
着する。ラジエーター前側は、風が直に当たる
ように向きを調整している。

逆輸入 NISSAN
FairladyZ HLS30

240ZにV8

石川編集長の
乗ってみなきゃ
わかんねーゾ!!



カッコ良く、速くなくてはならないチューニングカー。その姿を見ればカッコ良さはすぐに分かるけど、速さはエンジンの作りやパーツ選択、スペックなどで想像するしかない… それだけではイマイチ納得できない貴方へ、じゃ、乗ってみるか!! というノリで始まった“石川編集長の乗って見なきゃわかんねーゾ”コーナー、調子に乗って三ヶ月連続! 今月はとつても悪そうなS30…

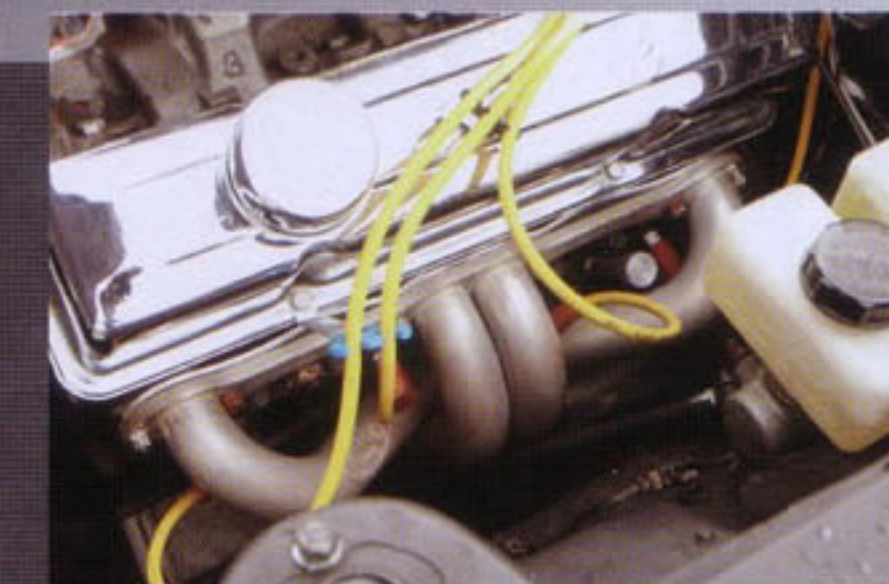
マッチョな雰囲気.HLS30+V8
の実力は!?

連続登場、張り切って
乗って見るぞ!!

「何ヶ月もいないで乗ったり、今月
で三ヶ月連続というかなりムシの
あるこの企画、調子に乗って今月
も行きましょよ。」

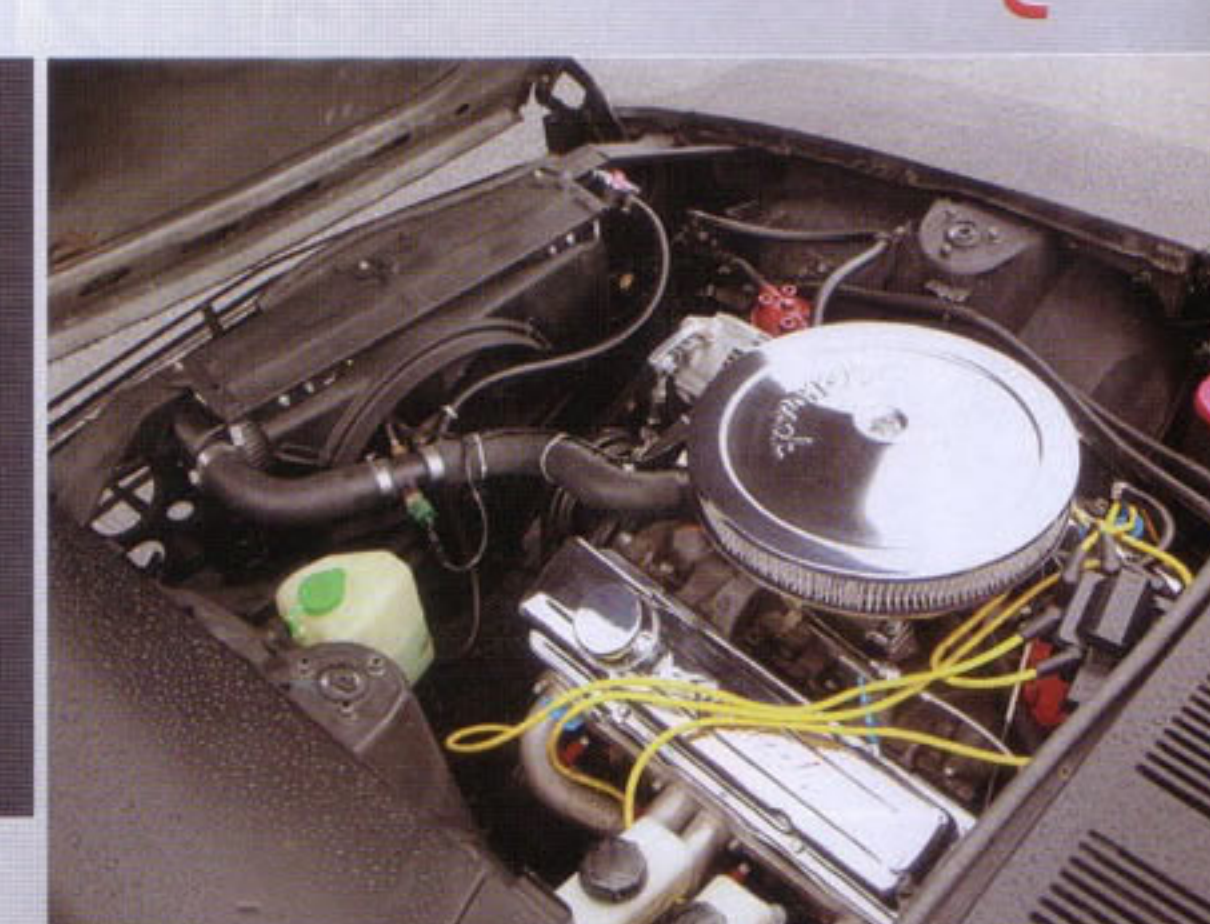
どれだけの種類が
存在するの? ホントに

「前々号で紹介した、RB25ター
ボを搭載し、WC34ステアシアの
装備をそのまま移植して使える
ように製作したHLS30、前号では
左ハンドルS30にアメリカン
V8を積み、シックな雰囲気だ
上げたHLS30を紹介したけど、
ロッキーオートでは様々なクル
マを扱っている。だからこそ、フル
オリジナルに拘ったクルマから、
エンジンを載せ替えたフル
チューンまで、それはもうお客
さんの要望に真っ直ぐ応える姿
勢が素晴らしいと思っし、それに
応えられるだけの技術力もたい
したもの。それないうちを考
えていると「J」のつのはないん
じゃない」という仕様を思いつき、
「なんか悪そうなく、ないです
かねえ。正統派じゃなくって」とい
う話を伺いながら「あ、あ、あ
すよ!!」という言葉が!! いった
い、といった感じだ。



（上）キレイなタコ足が装着され、もちろん
左右に装着。この排気管は、反対側には
ステンレス製で、タコ足はステン
レスと透けている。製作されたエンジンマ
ウント、強力なトルクにも耐えられる構造だ

エンジンはアメリカンV8で真ん中には丸形のエア
クリーナーが付く、見慣れた感じのエンジン。キャブ
レターはファンキャブだが、4バレルなので踏み込むと
それなりの混合気を送ることが可能なシステム。出る
限り後方にマウントされているのが分かる



石川編集長の乗ってみなきゃわかんねーゾ!!

愛知・ロッキーオート
フェアレディZ HSL30改

Making of ROCKY AUTO



SIDE

リアだけオーバーフェンダーを付けたスタイルは何とも不良。しかもこのハイトの高いタイヤはドラッグレーサーを思い浮かべる。あらゆるものをブラックアウトしたスタイルは凄みを感じる



↑ FRONT ↓ REAR

バンパーやリアガーニッシュはもちろん、かなり凄みの効いたリアビューと、フロントビュー。灯火類を下手にスモークドにしている点もこの凄みをさらに増している感覚。これがバックミラーに見えたら、間違いなく道を譲ってしまうね

細部も考えられて製作される



←追加されたメーター類は機能的にノーマルの部分に埋め込まれているので、意外とすっきりとした室内。カーステも付き、シフトはマニュアルの6速。→車速感应型、電動パワステが取り付けられるので車庫入れなどの取り回しは楽勝だ



走りも見ただ目と同じ!?なのか!?

前回と同様、こちらもコルベツトNR6の6速マニュアルミッション搭載。シフトストロークが少なく、入りも気持ちがいいシフトを1速に入れて走り出す。もう、いきなり大トルク!!前号のクルマは低いギヤだとトルクを感じにくかったが、こちらは逆に低いギヤでもトルクを感じる!!2000回転も回ってれば、2速から3速、4速、5速、6速とどんどん入れられ、その速度はもつとくく法定速度をオーバーしている。4速2000回転くらいが、一般公道での法定限界速度って感じくらい。そこから踏めばグイグイ加

速をしていくから、コレはもうやめられずに加速、減速を繰り返してしまっただ。

気になる乗り心地もかなり快適。これだけ厚みのあるタイヤだから当たり前と言えは当たり前だけど、路面のギャップでの突き上げは全くなく、ステアリングも意外にシヤープに反応。これはパワステが付いていることも関係していると思う。

タイヤに厚みがあるおかげで、グリップも良好。試乗時は雨だったにもかかわらずたわみを上手く利用して、これだけのトルクなのにスリップしない。コレもちょっとびっくり。もちろん滑りそうと思えば簡単に滑り出すトルクだけだね。それよりもS30に大排気

ロッキーオート



ロッキーオート渡辺社長はもつこの業界では有名な。今後も面白いクルマをどんどん作っていくという



今回紹介したV8を搭載したフェアレディZはもちろん、RB20、RB25、RB26エンジンを搭載したZ、ハコスカからフルオリジナルのハコスカGT-RやケンメリGT-Rなど日車なら殆ど揃ってしまうロッキーオート。しかも程度の良いモノが全国から集まってくるのだ。在庫車はショールームの横の展示コーナーから第一、第二までであると言うからきみの要望に合ったクルマがきっと見つかるはずだ

愛知県岡崎市明大寺町 TEL0564-58-7080

量のV8がすんなり載ってしまっただ、普通に走ってしまっただも凄いこと。確かにこの仕様でSタイヤなどハイグリップタイヤを履いて、サーキットを走るとなると話は変わってきてしまっただ、市街地を楽しく走るには充分の内容。もちろん、安全に走る事も可能だから恐れ入る。それだけS30の許容が広いと言っただもあるけど、こういった車を作り慣れているシヨップ、ロッキーオートならではというのも言えるよね。

見た目の凶暴さはエンジンにも表れていたけど、意外や意外、優しく扱ってやれば言っただも素直に聞いてくれる。じゃじゃ馬というか凶暴なヤツを上手く調教している感覚が何とも気持ちいい、HLS30だ。

ショールーム横・工場で作中のS30。見る人が見ればもうすでにかなりの加工がしてあるのが分かる

2011. 4.2~3 ポートメッセ名古屋
主催: オプションランド

Exciting Car Showdown

エキサイティングカーショーダウン



会場には魅力的なチューンドがいっぱい!!

チューニングカー「限定」で、しかもショップとユーザーのマシンが主役という、独自路線を突き進むエキサイティングカーショーダウンは今年で6年目。会場のゲート前にはかなりの長蛇の列ができ、注目度の高さがひしひしと伝わってきたぞ!

昨年の岡山国際マイスターカップでのクラス優勝を果たしたプロストックレーシングのGT-R。代表の神さんが自ら駆つての活躍という、まさに有言実行型!



HKS ステップII 87φピストン/フルバランス済み272度カムを組んだ2.8LエンジンにTO4Zでドレーピングした700ps。純正ミッションで出した結果という漢っぴりがイイ!



広島市のH.D.Oが製作してD1に盛り込みをかけたSR20DET×TD06-25G搭載のLBた1440psのパワーと51キロのトルクで軽量ボディを振り回して観客を魅了!



S2000の心臓F22CをTODAターボキットのTD06-19Cと組んで搭載したパワースポーツのハチロク。ミッションはスカイライン系の30Aを採用。マネジメントはVプロ。これもマジで乗ってみたい!

有名チューンドも数多く展示!!

6年ぶりに国内イベントへ復帰したヴェイルサイド。しばらくの海外活動で磨き上げた感性を、同ブランドの原点である80スープラにフィードバックした渾身の一台だ



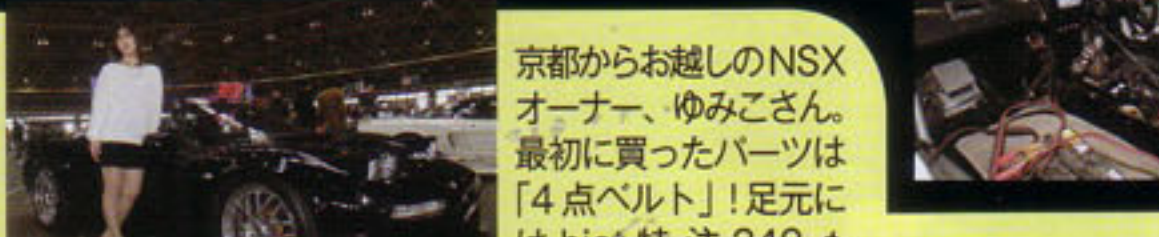
愛知のおかだ家によるYZサーキット用アタック仕様。タモンデザインの迫力ボディに積んだエンジンは550ps。ラジエターはウォータースプレー付きリヤマウント化!



でもGワークス常連!?

ガールズコレクション

女性オーナー限定「ガールズコレクション」。公開女子会が開催され、ここでも「ハコノリ」娘な福島アグネス嬢が進行MCを担当。旧車ハコノリ台だけだった...



「特設ステージでマフラーを吹かしまくる」イベントは今年も健在。Gワークス系のクルマはエンジンサウンドも爆音!

本誌増刊号や別冊ルートGワークスでお馴染みの走れる71集団「七志滑走組」が来襲! 嫁さんの1.5G-G+6スロ仕様のほか、2Gターボ仕様や1JZ仕様と、全部71クラスで揃えてきた!



チャリティオークション開催

来場者を飽きさせないイベント盛りだくさん

ブース紹介



エンジン形式こそお得意のRBだが、L型のセオリーを踏襲するNA大排気量チューン。輸出専用RB30Eに26ヘッドを載せ、ワンオフ等長タコ足とソレックス50φを装着

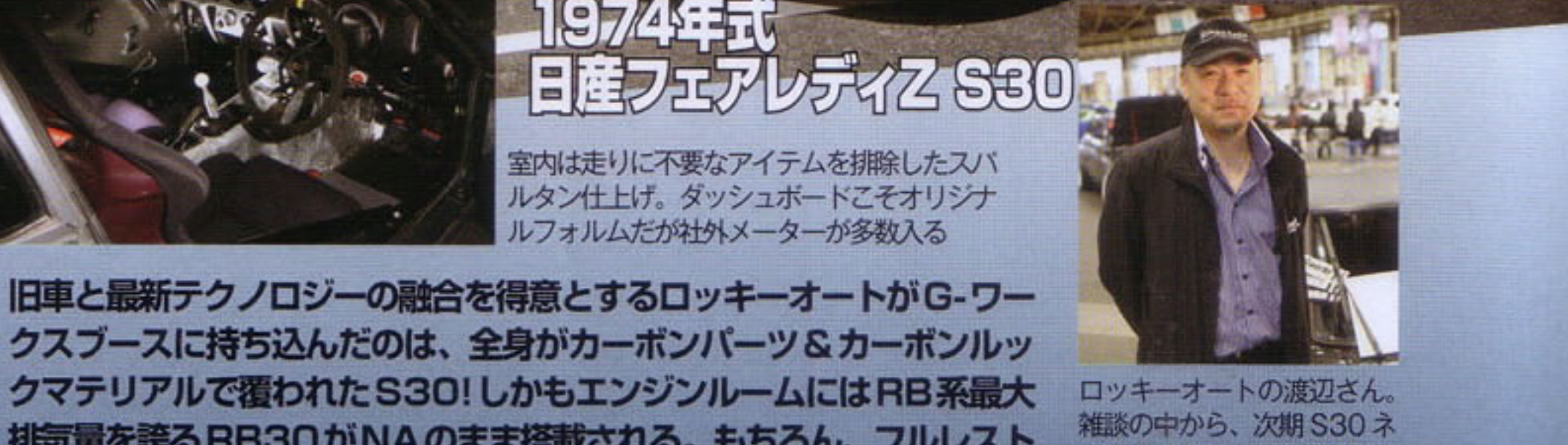


ロッキータート

カーボンZ



バンパーやパーフェンも含めて全てがカーボンルックとなるため、材質が異なるテールレンズやホイールがやけに迫力が増して見えて存在感抜群だ



1974年式 日産フェアレディZ S30

室内は走行に不要なアイテムを排除したスバルタン仕上げ。ダッシュボードこそオリジナルフルフォームだが社外メーターが多数入る



ロッキータートの渡辺さん。雑誌の中から、次期S30ネタが聞こえて来た。禁断の...と言えそうなのは期待大!

旧車と最新テクノロジーの融合を得意とするロッキータートがGワークスブースに持ち込んだのは、全身がカーボンパーツ&カーボンルックマテリアルで覆われたS30! しかもエンジンルームにはRB系最大排気量を誇るRB30がNAのまま搭載される。もちろん、フルレストアを行ったボディをベースにしており、色んな意味で「究極」な一台だ

リスキービジネス



1973年式 デトマソ パンテラ

昨年の2月号に掲載された岡田さんのバンテラが登場! 仕様が変わり、眩く輝くエキゾースト系を見せていた。エンジンがオーバーホールされてピストンリングこそ新品に替えられたが、データ取りの意味もあって、チューニング的なことは一切ナシ。締め付けトルクよりも真円出しやクリアランスを重視するなど、組み付け精度の追求だけで20ps近い出力向上を実現している。

ワイドバンテラ



テールランプの間から顔を出すマフラーエンドは、前回掲載時には無かったワイルドスタイル。フェンダーはGT4タイプを装着し、この上ないワイド&ローなリヤビューを獲得。見る者を圧倒する。そのスーパーカーという言葉に収まりきれない迫力に、ただただ見とれるお客さん続出!

10mm厚のステンレス板切り出しのフランジから50.8φのエキパイを立ち上げ、集合部で70φに拡大。左右それぞれを集合させ、流れるようなキレイなラインで、リヤガニッシュ中央へと排気させている